

留学体験レポート

今回アメリカ留学を体験して、とても興味深く感動したことがある。それは、留学に参加する前に比べて自分のコミュニティが大きくなったということである。以下に引用するのは、UCMの先生の一人が前期終了の時に述べたスピーチからである。「この大学に来る前は多くの国の名前を知っていても、それほど気に留めたりしなかったと思う。でも、多くの国の人と繋がりができ、国々を知っていくきっかけとなったのでは。自分の国に帰ったらもう一回、周りを見直してみて。コミュニティが広がったから。」私は、この言葉に感動し、またこの留学を通じてできた繋がりを絶やすことなく、むしろ広げていきたいと切に感じた。

次に、ウォレンズバーグについて述べる。私は、最初にUCMに足を運んだ時、規模の大きさに圧倒された。図書館は本当に広くて、本の種類や設備が充実していた。お気に入りのところは、館内にベーグルなどを売っているところがあり、勉強スペースに持ち込みできる場所であった。更には、フットボールの試合場があり、初めて試合をみることができた。留学に行く前には、UCMがあるところは結構田舎だと聞いていたが、思っていたほどではなかった。ダウンタウンには多くの店が立ち並んでおり、ハロウィンになると多くの家族連れで賑わっており、家族と一緒に仮装を楽しんでいる光景が印象的であった。また、12月にはスープコンペティションというイベントがあり、一人5ドル位払えば、12-15の店のスープを試飲できるというものである。店によってまったく味が違うものがあったのでとても面白かった。毎日の食事は、寮の近くにダイニングホールがあるので、主にそこで三食食べていた。大学内には3つのダイニングホールがあり、あるところはヘルシーだったり、あるところは脂肪が多く含まれている食事だったり、色々種類があるので、試してみるのもたのしかった。食事に飽きてきたときには、ダイニングホールを変えることをお勧めする。とにかく毎日が新鮮で、毎日といっていいほど何かがおこったり、大学のイベントが目白押しでワクワクしたり、反対に、授業内容が難しく、週末は部屋にこもって頭を悩ませていた日々もあったり、授業についていけないのかどうかわからず落ち込む日も多々あった。しかし、振り返ってみると本当に充実した生活だったと心から思える、そんな留学であった。